テクニカル・メッセージ

燃料系フィルタの定期メンテナンスと使用燃料についてのお願い

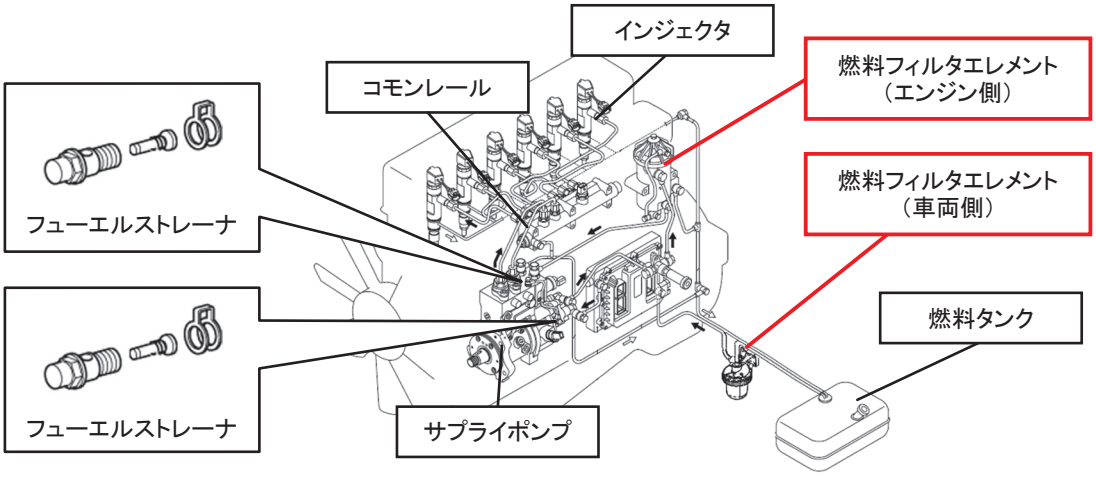
近年のディーゼルエンジンは燃料噴射の高圧化、インジェクタ等の燃料噴射装置の高精度化が進んでいます。そのため燃料系の微小な異物や燃料フィルタエレメントの目詰まりも、大きなトラブルの原因になります。**従来以上に、定期メンテナンス時期を守った燃料系フィルタエレメントの交換をお願いします**。交換時期に関しましては、下記をご参照ください。なお交換の際は、日野純正エレメントの使用を強くおすすめ致します。

■ 対象車両

日野トラック・バス　ディーゼルエンジン搭載車

■ 燃料フィルタエレメントの役割

燃料フィルタエレメントは、燃料中の異物（砂、金属粉、カーボン、繊維等）の捕捉や水分を分離することで、燃料噴射装置を保護する役割を持っております。

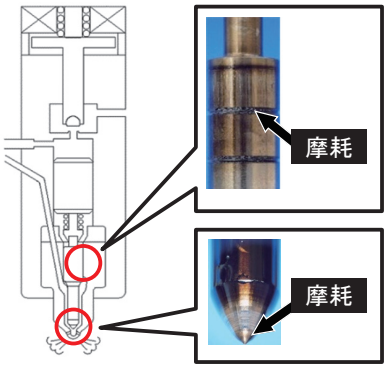


注）年式や車型によりエレメント及びストレーナの数、位置が異なることがあります。

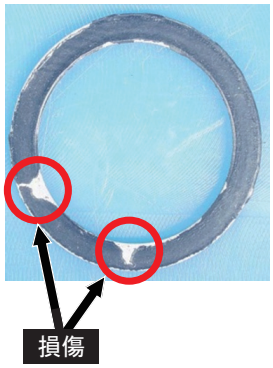
■ 定期交換時期を過ぎたまま使い続けると

定期交換時期を過ぎた状態で使い続けると、燃料フィルタエレメントが目詰まりし、エンジンの出力不足が発生するばかりでなく、フィルタ本来の異物捕捉機能や水分分離機能が失われます。その結果、燃料噴射装置の保護機能が低下し、インジェクタ等の寿命を縮めたり、燃料シール部や燃料パイプの損傷による燃料漏れやエンジンストールにつながる可能性があります。

◆インジェクタ内容部品の損傷事例



◆燃料シール部品の損傷事例



日野自動車

■ 定期メンテナンス時期について

燃料フィルタエレメントの交換、フューエルストレーナや燃料タンクの洗浄は、下記定期メンテナンス時期を守り実施してください。
（※取扱説明書及びメンテナンスノートから抜粋）

◆平成28年排出ガス規制（ポスト・ポスト新長期）

通称名	エンジン	燃料フィルタエレメント		フューエルストレーナ（清掃）	燃料タンク（水分・沈殿物排出）
		エンジン側	車両側		
デュトロ	N04C	1年毎または60,000km毎	1年毎または60,000km毎	―	―
	消防車（N04C）	1年毎または750時間毎	1年毎または750時間毎	―	―
レンジャー、メルファ	A05C	1年毎または60,000km毎	1年毎または60,000km毎	―	―
	消防車（A05C）	1年毎または750時間毎	1年毎または750時間毎	60時間毎	―
プロフィア	E13C、A09C	1年毎または60,000km毎	*1 1年毎または60,000km毎	1ヶ月毎または5,000km毎	1年毎（冬季前）
	消防車（E13C、A09C）	1年毎または750時間毎	*1 1年毎または750時間毎	1ヶ月毎または60時間毎	1年毎（冬季前）
リエッセⅡ	N04C	60,000km毎	60,000km毎	―	―
ポンチョ	J05E	1年毎または60,000km毎	1年毎または60,000km毎	―	―
ブルーリボン、レインボー	4HK1	2年毎または燃料フィルタ表示（橙）点灯時	2年毎または燃料フィルタ表示（橙）点灯時	1年毎（搭載車のみ）	1年毎（ストレーナの洗浄を含む）
セレガ、ブルーリボンハイブリッド	A05C、E13C、A09C	1年毎または60,000km毎	*1 1年毎または60,000km毎	1ヶ月毎または5,000km毎	1年毎（冬季前）（HL車はストレーナの洗浄を含む）

*1：年式、エンジン型式により搭載していない車両があります

◆平成17年排出ガス規制（新長期）～ 平成21年排出ガス規制（ポスト新長期）
年式によりメンテナンス時期が異なる場合がありますので車載の取扱説明書及び、メンテナンスノートをご参照ください。

通称名	エンジン	燃料フィルタエレメント		フューエルストレーナ（清掃）	燃料タンク（水分・沈殿物排出）
		エンジン側	車両側		
デュトロ	N04C	*1 *2 10年毎または300，000km毎	*2 60，000km毎	―	―
		*1 *2 1年毎または60，000km毎	*2 1年毎または60，000km毎		
	消防車（N04C）	*1 3，750時間毎	750時間毎	―	―
		*1 1年毎または750時間毎	1年毎または750時間毎		
レンジャー	J05D、J05E、J07E、J08E、A05C	60，000km毎	*1 60，000km毎	―	1年毎（冬季前）
	消防車（J07E、J08E）	750時間毎	*1 750時間毎	60時間毎	1年毎（冬季前）
メルファ、レインボー	J07E	*2 60，000km毎	*1 60，000km毎	―	1年毎（冬季前）
		*2 150，000km毎			
プロフィア	E13C、A09C	60，000km毎	*1 1年毎	1ヶ月毎または5，000km毎	1年毎（冬季前）
	消防車（E13C、A09C）	750時間毎	*1 1年毎	1ヶ月毎または60時間毎	1年毎（冬季前）
リエッセⅡ	N04C	*1 60，000km毎	60，000km毎	―	―
リエッセ	J05D	60，000km毎	―	―	1年毎（冬季前）
ポンチョ	J05D J05E	60，000km毎	*1 60，000km毎	―	―
レインボーⅡ	4HK1、6HK1	*2 1年毎または50，000km毎	*1 2年毎または燃料フィルタ表示（橙）点灯時	*1 1年毎	1年毎（ストレーナ搭載車はストレーナの洗浄を含む）
		*2 2年毎または燃料フィルタ表示（橙）点灯時			
ブルーリボンⅡ、ブルーリボン	4HK1、6HK1	*2 2年毎または50，000km毎	*1 2年毎または燃料フィルタ表示（橙）点灯時	*1 1年毎	1年毎（ストレーナ搭載車はストレーナの洗浄を含む）
		*2 2年毎または燃料フィルタ表示（橙）点灯時			
セレガ、ブルーリボンハイブリッド、ブルーリボンシティハイブリッド	J08E、A05C、E13C、A09C	60，000km毎	*1 J08E、A05C：60，000km毎 E13C：1年毎（A09Cは除く）	1ヶ月毎または5，000km毎（J08E、A05Cは除く）	1年毎（冬季前）（HL車はストレーナの洗浄を含む）

*1：年式、エンジン型式により搭載していない車両があります
*2：年式によりメンテナンス時期が異なります

■ 使用燃料の種類と凍結温度について

軽油は凍結温度の違いで、JIS 規格で定められた特1号から特3号までの計5種類があります。外気温に適さない軽油を使用している状態で、冬季の山間地や寒冷地に向かった場合、燃料が凍結しエンジンの出力不足やエンジンの始動に影響を及ぼす可能性があります。このため、冬季は外気温に適した燃料の使用をお願い致します。

＜規格燃料（JIS 規格）一覧表＞

燃料	凍結温度の目安
JIS 特 1 号軽油	+5℃以下
JIS　　1 号軽油	−2.5℃以下
JIS　　2 号軽油	−7.5℃以下
JIS　　3 号軽油	−20℃以下
JIS 特 3 号軽油	−30℃以下

◆一般地から山間地や寒冷地へ行く場合、出来るだけ早い段階で現地のガソリンスタンドにて給油していただき、燃料タンク内の燃料を3号または特3号軽油に替えるようにしてください。

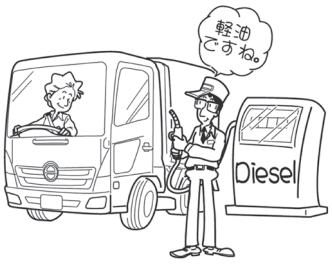
◆燃料タンク内に特1号・1号・2号軽油が多く残っている状態で3号・特3号軽油を給油しても、上記表の凍結目安温度より高い温度で凍結に至ることがあります。

◆フェリー等を使用して寒冷地に行く場合も、乗船前に燃料残量を最低限に調整していただき、現地到着後に3号または特3号軽油を給油してください。

◆燃料給油の際は、燃料タンクの給油口からゴミや水が入らないようにご注意ください。
また、燃料タンクのキャップは規定の位置まで確実に締めてください。

■ 規格燃料以外の燃料ご使用による懸念事項（ご参考）

規格燃料（推奨 JIS 規格燃料）をご使用いただけないと、燃料特性によって燃料フィルタエレメントの早期目詰まりや燃料装置、排出ガス還元装置等の故障につながるおそれがあります。
規格燃料（推奨 JIS 規格燃料）のご使用を徹底してください。



燃料特性	懸念事項
酸化安定度が悪い燃料	配管・燃料タンクが腐食する スラッジ発生により燃料フィルタ・インジェクタが詰まる
セタン指数が低い燃料	着火性が悪化することで、NOx及び始動性が悪化する
発熱量が低い燃料	エンジンの出力が低下する
動粘度の低い燃料	燃料潤滑部位（インジェクタ部品等）の固着や摩耗等を促進する
硫黄分が多い燃料	腐食摩耗が発生する
固体微粒子が多い燃料	燃料潤滑部位（インジェクタ部品等）の固着や摩耗を促進する 燃料フィルタエレメントの早期詰まりにより排出ガスが悪化する
含水率が多い燃料	錆が発生しインジェクタ等が摺動不良を引き起こす 燃焼悪化による失火によりエンスト等を起こす